

厚生省「第6回「安心と希望の医療確保ビジョン」具体化に関する検討会」 来年度の医学部入学者は過去最大を上回る見込み

医師数や医学教育などの見直しを図るため、厚生労働省は今年6月、「安心と希望の医療確保ビジョン」を策定した。ビジョンに盛り込まれた各種施策の具体化を検討する『安心と希望の医療確保ビジョン』具体化に関する検討会（座長：高久史磨自治医科大学学長）は8月24日、舛添厚生労働大臣を交えて議論し、今後10年間で医師数を1.5倍に増やすことなどを盛り込んだ報告書の骨子案をまとめた。27日の検討会で正式に取りまとめる。

医師養成数の短期的対策として、過去最大の8360人程度まで増員（462人増）することが「経済財政改革の基本方針2008」（骨太の方針）に盛り込まれているが、同日の検討会では、来年度の医学部定員数は680人増加（私立320人増、国公立360人増）が予定されており、過去最大数に達する見込みであることが委員から報告された。中長期的には、現在の医師総数の1.5倍程度まで医師を増やすことが報告書案に盛り込まれた。

また、地域の医師不足や診療科間の偏在を是正する観点から、卒前教育を含め、初期臨床研修、後期研修、専門医養成まで、すべての研修制度の在り方を見直す。舛添厚生労働大臣は、「厚生労働省と文部科学省が合同で医師養成について検討し、政策の形にしたい」とし、今週中に文部科学省と検討を始める意向を示した。



左から、舛添厚生労働大臣、高久座長、小川(秀興)座長代理、石坂(浩二)参考人